

電子アートワークの作成について

Elytra, New Series では、挿図作成時のフォーマットを原則として以下のように定めています。編集作業の迅速化、効率化を図るため、フォーマットに沿った挿図が作成されているか確認の上、投稿していただきますようご協力をお願いいたします。

○挿図の形式

ファイル形式: TIFF, EPS, JPEG, PDF

最大幅(横×縦): 135 mm×199 mm

- ・特段の理由がなければ、TIFF形式での投稿を推奨する。JPEG形式の挿図も受け付けるが、刷上りの画質が劣化する恐れがあるため、留意すること。
- ・Word, Excel, PowerPoint 等の Microsoft Office 形式での画像投稿は、画質が著しく劣化する恐れがあるため、受け付けない。
- ・印刷原寸で 0.3pt 以下の細い線や、透明度 30%以下の薄い線は消える可能性があるため、使用不可。また、透明度 10%以下の塗りは、印刷時に消える可能性があるので注意。
- ・PDF 形式の場合は、プレス品質で作成し、フォントは必ず埋め込むこと。

○挿図の解像度

カラー: 350– 600dpi

グレースケール: 600 – 800dpi

モノクロ・線画: 1,200dpi

・写真と線画は、異なるファイルとして用意すること。異なる画像種の組み合わせを希望する際には、画像種ごとに上記解像度にて別ファイルとして用意し、同時に希望するレイアウトのサンプルを添付すること。

例) カラー画像 Figs. 1 & 2 にモノクロの線画 Fig. 3 を組み合わせる場合、Fig. 1 と Fig. 2 を 350dpi でセッティングした上で2点組み合わせたファイルと、Fig. 3 を 1200dpi でセッティングしたファイルを別々に用意した上で、著者が希望するレイアウトのサンプル (Figs. 1-3 を組み合わせたファイル) を原稿に添付する。

・推奨解像度は、最大幅(135 mm×199 mm)における解像度である。必要に応じて計算されたい。推奨値を超える分には構わないが、ファイルサイズが大きくなるため注意。ただし、どのような挿図でも低画質から高画質への変換はほぼ不可能であるため、原図は可能な限り高解像度で作成し、投稿時に必要に応じて規程解像度程度まで落とすと良い。なお、ハンドリングの都合により、まずは低解像に圧縮したもので投稿いただいても構わないが、その場合は受理後に高解像度の挿図の提出が必要となる(末尾の作成例を参照のこと)。

・手書きの挿図は、3,000dpi 以上でスキャンしたものを、1,200dpi 程度まで解像度を落として投稿すれば、高画質かつ適度なファイル容量に抑えられる。なお、スキャンした画像は、そのままではごみ等のノイズが多いため、十分にクリーニングして投稿すること。

○挿図のフォント

- ・Times の太字を推奨する。Times 以外を使用するならば、MS ゴシック、MSP ゴシック、Arial、Helvetica、Symbol などの TrueType 又は OpenType を使用すること。
- ・フォントサイズが極端にばらつかないように注意すること。挿図の横幅、解像度、フォントを揃えることで、印刷時の各挿図のフォントサイズを統一できる。

○挿図作成時の推奨アプリケーション

画像: Adobe Photoshop

線画: Adobe Photoshop, Adobe Illustrator

・Photoshop や Illustrator については、Adobe 製品の HP に使い方が丁寧に解説されているため、挿図作成時に参照されたい。なお、甲虫学会は Adobe 製品の利用を要求および宣伝するものではない。必ずしも Adobe 製品を使用しなくても挿図作成は可能である。ただし、おそらく Adobe 製品が最も広く使われているため、参考になる情報が充実している。

Adobe Photoshop ラーニングとサポート

<https://helpx.adobe.com/jp/support/photoshop.html?promoid=5NHJ8FD2&mv=other>

Adobe Illustrator ラーニングとサポート(<https://helpx.adobe.com/jp/support/illustrator.html>)

参照手順 (Photoshop でのカラー挿図作成例)

1. 新規ドキュメント(横 135 mm×縦 199mm, 800dpi, RGB)を作成する。(※背景は任意だが、白色が扱いやすい。)
2. 各図をドキュメント上に配置し、図番号(Times, 太字, 14pt~20pt)を付す。(※できるだけ詰めて配置すれば間の抜けた挿図にならない。)
3. 配置が完了した挿図を PSD 形式にて保存する。(※これがオリジナル挿図となる。)
4. 推奨解像度を参考に 3 のオリジナル挿図の解像度を変更する。さらに不要な空白をトリミングで除き、TIFF 形式にて保存する。(※これが印刷用の最終挿図となる。※レイヤーを破棄し、LZW で圧縮するとファイルサイズを小さくできる。)
5. さらに、解像度を 100dpi 程度に落としたものを JPEG で保存する。
6. 5 で作成した JPEG 挿図を査読用ファイルとして投稿原稿に添付する。
7. 査読結果に応じてオリジナル挿図(PSD)に変更を加え、上記手順を繰り返す。
8. 原稿が受理されたら、最終版の TIFF 挿図を編集委員に送付。(※ファイルサイズが大きいものは転送サービスや OneDrive や DropBox などのクラウドサービスを活用すること)

2020年3月10日
日本甲虫学会欧文誌編集委員会